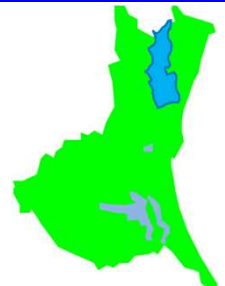


茨城県常陸太田市



・路線バス、コミュニティバス、通院バス、スクールバスが異なるサービス水準で重複運行し、公的負担の増加が課題であったところ、市内公共交通の再編に当たって、**路線バスに集約（混乗化）することで運行の効率化を実現し、輸送に係るリソースの効率化と公的負担抑制を実現。**

（取組の概要）

1. 多様な主体の実質的参画

- 路線バスへの集約に向けて、市地域公共交通活性化協議会の中に専門部会（市内交通事業者、各地区の地域交通に詳しい支所を統括する職員、運行事業の担当課長等で構成）を設置し、取組の概要、現状の共有、課題の整理、利用実態を把握。
- 市民等（市議会、町会、小学校、民生委員等、医師会、市民等、市民への戸別訪問など）の意見等を踏まえ、繰り返し協議を重ねることで合意形成を実現（計約160回）。

2. 創意工夫

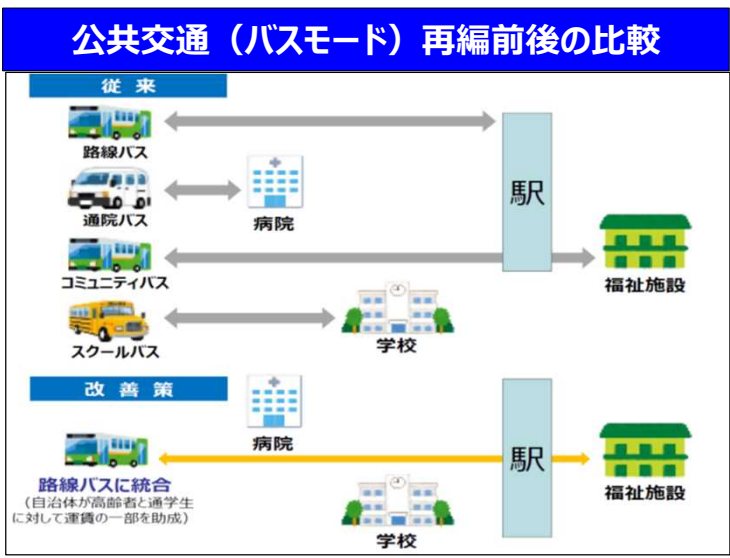
- 同一サービス・同一運賃の原則から、距離により加算される**3価格帯（200円・300円・500円）に統一することで利用者が分かりやすい運賃体系を構築。**なお、市内2事業者の運賃統一に当たり、**独占禁止法に抵触しないよう個別に調整を実施。**
- R4年度市内小学校の統合（6校→2校）に向けた取組として、徒歩で通えなくなる児童に路線バスを利用してもらうべく、**統合の4年前から教育委員会と連携し、学校関係者や保護者に、市の再編方針を丁寧に時間をかけて説明し理解を得ることに成功。**

安全対策や保護者の不安解消のため、PTA等と協力し、保護者の意見を集約し、可能な限り、各児童の自宅から停留所までの距離等を考慮したルートを設定。また、安全確保のため、運行ルート上の店舗等と個別に調整し、安全な乗降場所を確保。さらに、運行開始前に試乗会を複数回実施し、運行開始後は、市職員のほか地域ボランティアの協力も得てバスに一定期間同乗するなど、保護者・児童の不安解消に努めた。

- スクールバスを利用していた**児童・生徒には定期券購入費補助により無料**、さらに、**市内の中学校に通学する市民に対しては、市内バス路線を無料で乗車できる年間定期券を無償で配布（全国初の取組）**であり、バス利用に慣れてもらい高校進学後の継続利用等を見込んで実施）。
- また、**路線バスの利用が期待できる高齢者等について、75歳以上の市民はバス運賃半額助成、運転免許を自主返納した市民は、3年間、年1万円をチャージしたICカードを配付するなど、利用促進を図っている。**

3. 自立性・継続性

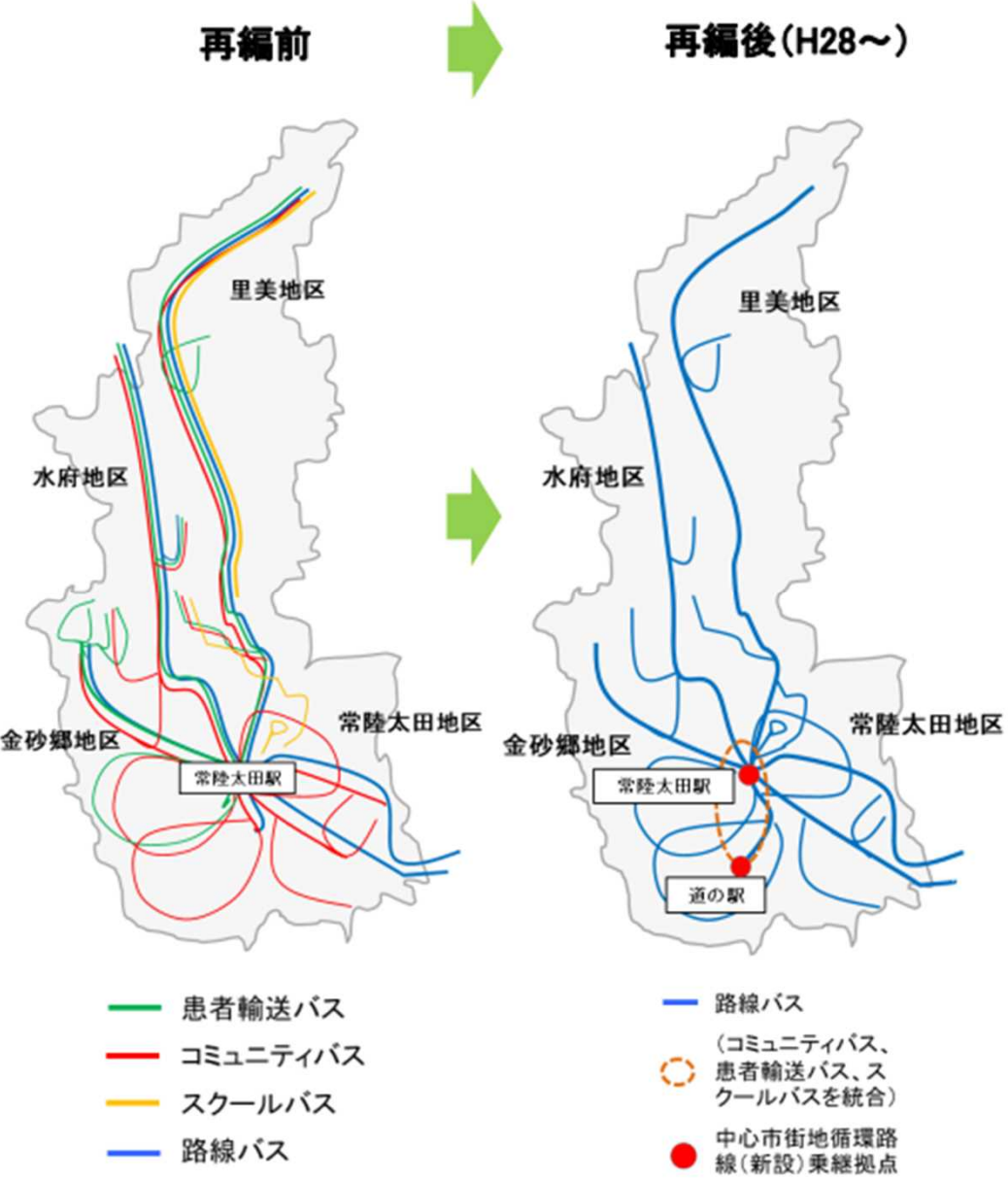
- 路線バスへの統合に併せて利便性向上のため72便の増便を行うことにより、年間走行キロは増加したものの**走行1km当たりの公費負担は減少しており、運行が効率化され利便性が向上。**
- 路線バスに集約したことで**運行費が削減され、市の負担額も減少し、市の財政の改善に寄与。**
- 路線バス利用者について、**コロナ禍以前と比較して増加**するなど成果を挙げており、必要不可欠なバス路線を安定的に維持することを実現。



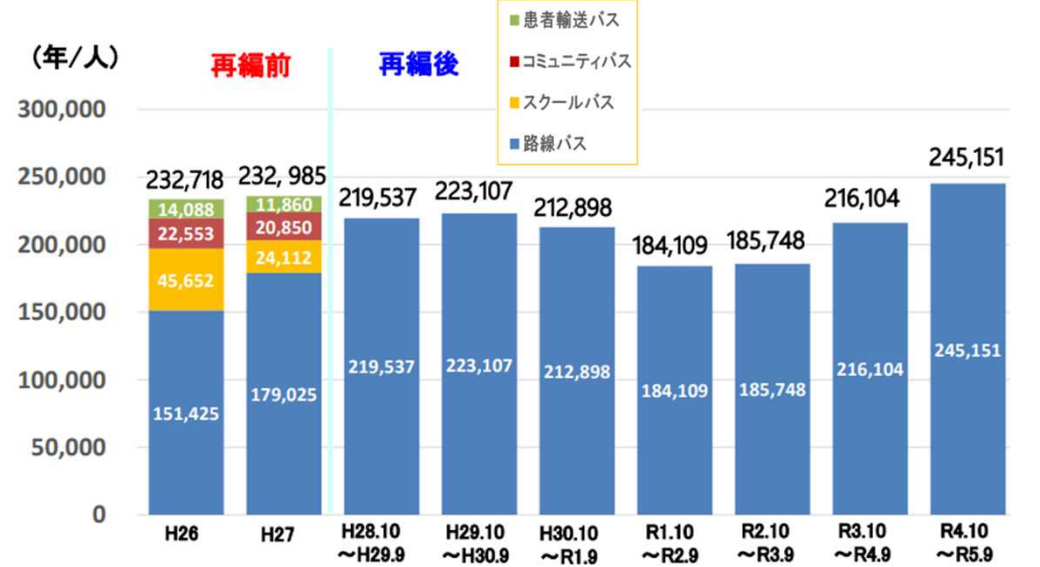
<再編前>					
種類	運行事業者	運行日	運行便数	年間走行キロ	運賃等
路線バス	茨城交通	毎日	403便/週	366,552km	各路線で異なる (最高料金1,690円)
コミュニティバス(市民バス)	茨城交通	各地区ごとに曜日を決めて運行月～土	68便/週	98,761km	1回200円 (未就学児、障害者は無料)
患者輸送バス(みどり号/通院送迎)	茨城交通 アール交通 里美ふるさと振興公社	各地区ごとに曜日を決めて運行月～土	70便/週	105,568km	無料
スクールバス	常陸ドライブ アール交通	平日 (休校日除く)	60便/週	42,883km	無料
合計			601便/週	613,765km	

<再編後>					
種類	運行事業者	運行日	運行便数	年間走行キロ	運賃等
路線バス	茨城交通	毎日	673便/週 (72便増)	677,365km (63,620km増)	約10km以内:200円 約10km～約20km:300円 約20km以上:500円 ※75歳以上は半額

コミュニティバス、患者輸送バス、スクールバスを路線バスに統合



利用者数の推移



スクールバスと路線バスの市負担額の比較

